

# JICA 中国事務所ニュースレター

2019 年度第 1 号

独立行政法人国際協力機構 中華人民共和国事務所  
郵便番号 100004 北京市朝陽区東三環北路 5 号北京發展大厦 400 室  
電話: +86-10-6590-9250 FAX: +86-10-6590-9260  
Email: jicacn-pr@jica.go.jp

- ★JICA ウェブサイト(中国): <https://www.jica.go.jp/china/index.html>
- ★JICA 中国事務所ミニブログ(微博): <http://weibo.com/u/3248071500>
- ★ボランティア活動(人民網): <http://j.people.com.cn/99005/index.html>

## この号の内容

1. 環境にやさしい社会構築プロジェクト  
「第3回中国大気汚染分析に関する日中合同研究会」及び「日中大気分析新技術交流会」の開催..... P3
2. 高齢化対策プロジェクトで第3回合同調整委員会を開催..... P4
3. 「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」の事後評価..... P5
4. 高齢化関連で河南省の学院と病院を視察..... P6
5. 湖南省洞庭湖流域農村水環境改善プロジェクト成果報告会..... P7
6. 日本大使公邸にて行われた春の交流会..... P7
7. 青海民族大学で 出張出前講座実施..... P8
8. 株式会社タシンは北京大学の協力を得て実証試験を開始しました！..... P9
9. 第17回中国国際人材交流大会に出展..... P10
10. 円借款「甘肅省蘭州市大気環境改善事業」による大気汚染対策へのサポート..... P11
11. 湖南大学×JICA 今夜は JICA Night “グローバル人材を目指すあなたへ”開催..... P12
12. ごみゼロ活動で日中協力..... P13

\*\*\*ニュースレターに関するお問い合わせはこちらまで\*\*\*

Email: [jicacn-pr@jica.go.jp](mailto:jicacn-pr@jica.go.jp)

皆様からのご感想やコメントをお待ちしております。



Japan International Cooperation Agency

環境にやさしい社会構築プロジェクト  
「第3回中国大気汚染分析に関する日中合同研究会」  
及び「日中大気分析新技術交流会」の開催

日中友好環境保全センターとJICA は、1992年以來、技術協力プロジェクトを行っており、現在はフェーズ5にあたる「環境にやさしい社会構築プロジェクト」（以下、本プロジェクト）（2016年～2021年）を実施しています。

本プロジェクトでは、大気汚染に関するモニタリングと分析評価能力の向上を重要な成果の一つとしており、北京の大気汚染について清華大学と共同研究を進めています。



「第3回中国大気汚染分析に関する日中合同研究会」には、日本から大気汚染管理に関する著名な7名の日本人専門家が参加。

そこで、2019年4月17日、清華大学において「第3回中国大気汚染分析に関する日中合同研究会」を開催しました。研究会では、清華大学が北京の大気試料について実施した、MALDI（マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析）技術に基づくPM2.5有機成分の分析方法及び汚染の特徴に関する研究についての進捗報告や、日本のアジア大気汚染研究センターが実施した

PM2.5イオン成分と炭素分析の結果について報告を行いました。

翌4月18日には、日中友好環境保全センターにおいて、「日中大気分析新技術交流会」を開催しました。技術交流会では、分析産業人ネット（日本）が、VOC（揮発性有機化合物）のモニタリング方法について講義を行いました。中国側参加者からは中国における取り組みの紹介等があり、VOCのモニタリング方法について情報共有を行いました。

本プロジェクトでは、こうした共同研究やセミナーなどの開催等を積極的に推進し、中国におけるより効果的な大気環境保全政策の推進に貢献していきます。

加治貴

## 高齢化対策プロジェクトで第 3 回合同調整委員会を開催

2019年6月28日、第3回プロジェクト合同調整委員会が民政部で開催されました。これは年に一度、プロジェクトの日中双方の代表者が集う会議であり、前年度の総括と今年度の計画を協議する場です。民政部養老服務司の王輝二級巡視員、JICA中国事務所の糟谷良久次長、中国科学技術分JICAプロジェクト管理事務室の秦洪明代表からのご挨拶の後、2018年度総括と2019年度計画について、日中双方の代表から概要説明がありました。



2018年度（2018年5月～2019年5月）総括について、日本側の長期専門家、臣川元寛よりプロジェクトのフレームワークに沿って、成果の報告がありました。国内研修、訪日研修といった既存の活動に加え、日本の関連法規集の出版、日本で作成された各種パンフレットなどの中国語化及び印刷製本、日本の福祉用品の新規購入、日中双方の養老関連情報のウェブ公開などプロジェクトの各種取組が言及されました。2019年度（2019年6月～2020年5月）の計画について、北京社会管理職業学院老年福祉学院の楊根来元院長が発表されました。職業学院の教員を対象としたTOT（Training of Trainers）研修、プロジェクトの最終段階（2020年4～5月）における大規模な成果発表会の開催などについて言及されました。

また、同日、第2回日中養老政策検討講座が開催されました。講師は第1回に引き続き中村信太郎JICA国際協力専門員（社会保障）で、講義内容は「日本における介護制度の展開:地域包括ケアと新たなアプローチ」でした。時間に限りはありましたが、参加者からは「小規模多機能型居宅介護のサービス提供者はどのような立場の人で、またその割合は？」など専門的な質問があったり、日本の教育体系を学びたい強い要望が出されたりするなど、充実した時間となりました。

講座も含めて非常に充実した会議となりました。プロジェクト関係者のみ30名ほどの会議でしたが、プロジェクト側からは、日本の介護施設で使われるマグカップ（三信化工株式会社、みまもりマグ）が日本の介護用品紹介の一環として提供されたほか、遠方のモ

デル施設から参加してくれた関係者には高齢者用の室内シューズ（徳武産業株式会社、あゆみシューズ）が贈呈されるなど、参加者にも実りの多い機会となりました。

プロジェクトは2020年5月19日に終了します。残されたのは10カ月ほどの時間ではありますが、3年目の成果の積み上げを踏まえ、日中双方とも最終年への期待の高まりが強く感じられる機会となりました。

臣川元寛

### 「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」の事後評価

2010年9月25日から2015年9月24日まで実施された「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」の案件事後の内部評価のため、陝西省洋県と寧陝県を訪問してきました。



本プロジェクトでは1.環境情報（トキを含む自然環境および社会環境）の整備、2.トキの野生復帰を行う体制の構築、3.住民参加型事業のモデルの構築、4.トキを含む自然環境保全に関する関係者の意識向上を図る、という4つの柱で活動を展開しました。

洋県、寧陝県のどちらでも、プロジェクトで導入された活動は継続的に行われていました。水田耕作を行

うために水路整備が行われた洋県の蔡河村を訪問した際には幸運なことに、田んぼの中で餌を探す4羽の野生のトキに出会うことができました。

村の人の話では、トキはもう身近にいる存在で村の人にとっては珍しい存在ではないとのこと。他所の人がくるとトキのことが珍しくてじっとみてしまうので、トキはすぐどこかに飛んでいってしまうけれども、村の人はそこまで注意を払わないので飛んでいかないそうです。

中国では絶滅したと言われていたトキは、1981年に7羽が発見され、現在生息域に暮らすみなさんにとってはいて当たり前の存在になりつつあるということは、まさにプロジェクトで目指した人間とトキの共生できる環境ができてきたといえるのではないかと感じました。

細貝瑞季



## 高齢化関連で河南省の学院と病院を視察

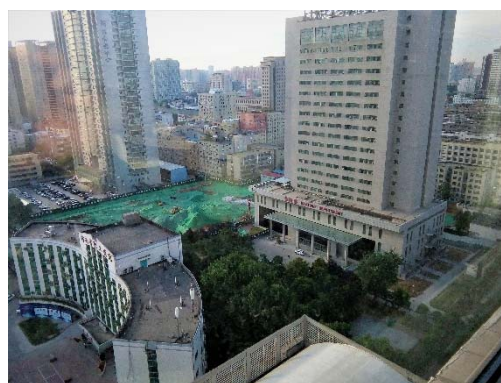
中国国際経済交流中心（CCIEE）からの案内を受けて、河南省許昌市にある“許昌職業技術学院”と河南省鄭州市にある“河南省職工医院”を訪問しました。JICAが現在実施している高齢化対策プロジェクトとは直接関連はありませんが、ODA終了後のJICA事業の方向性を模索する一つの試みとして視察を行いました。



病院では高齢者用の様々な福祉用具が展示されていた

鄭州にある河南省職工医院は三級の総合病院で、様々な先進医療技術設備を備えた大病院です。現在この病院では隣の敷地を活用し400床規模のメディカルリハビリセンターの建設を計画しており、2020年12月に完成予定ということです。その設計や人材育成、設備整備、管理運営などに対し、日本からの協力が期待され

許昌職業技術学院は学生数22000人のマンモス校で学生たちは自動車整備やキャビンアテンダントなど様々な実用的な技術を学んでいます。学内には医療衛生学院もあり看護師やリハビリ関連の専門職の育成も行っています。中国の高齢化が進む中、介護学部を設立する考えがあり、日本のカリキュラム等を参考にしたいということでした。



病院の横に（緑色の部分）施設の建設予定地がある



研修に参加する看護学部の学生たち。設備は充実している（許昌）

ており、今後病院側と日系企業等とも相談しながら協力の方向性を探りたいと思います。

現在中国では多くの高齢者施設が建設されている一方で、政策の動向としてはコミュニティケアを充実させることを決めています。大規模な施設であっても地域に開かれた施設となるよう、是非日本の経験や教訓を活かしてほしいものです。

内山 智尋

## 湖南省洞庭湖流域農村水環境改善プロジェクト成果報告会

「湖南省洞庭湖流域農村水環境改善プロジェクト成果報告会」が6月5日に開催されました。

3年間実施された滋賀県の草の根事業の最終報告会として、カウンターパート機関と滋賀県の実施団体側からそれぞれ紹介が行われました。モデル地域や学校などから異なる視点で振り返りが述べられ、湖南省側からはプロジェクトは終了するものの、今後目指す方向として引き続き滋賀県の取り組みから学びたいというコメントが出されました。



湖南省側の実施機関である水資源センターは、洞庭湖の面的水質モニタリングの実施のために予算申請を行っており、湖の地点をGPSで登録し、決まった場所での定点観測を行いたいとのことでした。



湖という共通の生態環境を軸として長年の交流が続いていること、なによりも専門家のみなさんが地域との関係性を築き、まさに顔のみえる関係を作り上げていることが印象的でした。今後、滋賀県と湖南省の協力がどのように展開していくのか、未来に向けた模索が続きます。

細貝瑞季

## 日本大使公邸にて行われた春の交流会



5月16日に日本大使公邸にて開催された春の交流会にJICA中国事務所もブースを出展しました。毎年行われる交流会ですが、今回も大盛況で900名近い来場者があったと聞いています。

日本大使と JICA 事業に係る中国側の関係者との集合写真

1979年の大平首相の中国訪問によって開始した対中ODAは、今年ちょうど40年目を迎え、これまで対中ODAやJICA事業に携わった中国側の関係者にも今回の交流会への参加を呼びかけ、多くの方が足を運んでくださいました。横井大使は、中日友好病院、日中友好環境保護センター、中国農業科学院、中国NGO組織等から参加された多くの関係者一人一人と丁寧に交流を行いました。来賓の方々からは、今後、対中ODA事業が終了することになっても、これまでプロジェクトを通じて得た経験・知識等を引き続き発展させていきたいという声が聞かれました。



日本大使と JICA 事業に係る中国側の関係者との集合写真

馮威

### 青海民族大学で 出張出前講座実施

青海省西寧の青海民族大学に対し、JICAはかつて日本語隊員を4代にわたり派遣していました。今では協力隊員の派遣は終了していますが関係は続いており、今回大学からの依頼を受けて、日本語学科の学生約60名に出前講座を実施しました。



クイズに楽しそうに答える学生たち



糟谷次長がJICA事業について紹介

今回の出前講座は、学校の専門知識実習の時間を活用し、世界における貧困などの開発問題の存在、世界の国と日本とのつながり、そして問題解決のためにODAを活用して協力する必要性、中国におけるODA案件の事例などを紹介しました。

また、身近な問題を考え、それに向けた解決策を議論するグループワークを行いました。グループごとに、サイなど野生動物の乱獲や少子高齢化、森林保全の問題などを取り上



げ、グループの代表が日本語で発表を行いました。開発問題を考えるきっかけとなり、また日本語での発表の練習にもなったのではないかと思います。

学生へのJICA事業紹介・開発教育は、日本人学校で行うことが多いですが、中国の学校でも希望があれば伺います。

馮威

### 株式会社タシンは北京大学の協力を得て実証試験を開始しました！



ディーゼル車にタシン製品を取り付け中



ガソリン車にタシン製品を取り付け中

株式会社タシン（以下「タシン」）は、JICA企業提案型事業に採択され、「中華人民共和国北京市における自動車由来の大気汚染削減と燃費改善案件化調査」を2018年6月まで実施しました。本調査の成果の一つとして、実施期間中から協力を得ていた北京大学が、当該案件終了後も継続してタシンの中国国内における活動への協力に合意したことが挙げられます。

タシンと北京大学は、当該案件化調査終了後に、中華人民共和国科学技術部（以下「科技部」）の日中連携事業に申請し採択（他の日系企業4社も採択され、合計5案件が実施中されています。）され、科技部の助成金を用いて2019年6月より実証試験を開始することになりました。

今回は、北京大学深セン研究生院の全面的な協力を得て、第一回目の公道での実証試験が行われました。タシンから学生（修士及び博士）に対し、実証試験で使用する計測器の使用方法やタシン製品の



実証試験に用いたディーゼル車

排気ガス削減及び燃費向上のメカニズムについて丁寧な説明がなされ、双方の関係者の関係が深まりました。

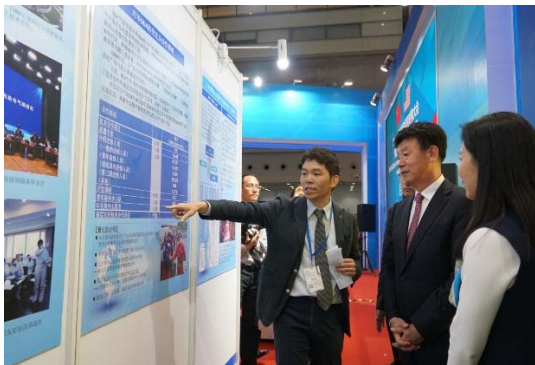
実証試験の結果は、ガソリン車及びディーゼル車ともに排気ガス削減及び燃費向上が良好で、今回参加した北京大学の学生からは大きな歓声が上がっていました。

今後、公道及び試験室での実証試験を数度繰り返し、結果報告を取りまとめ、北京大学と中国国内企業と連携し中国国内でのビジネス展開に繋げていく予定です。

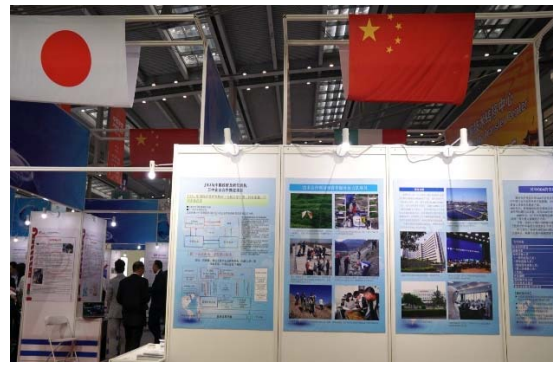
土岐典行

### ～第 17 回中国国際人材交流大会に出展～

中国の新たな産業変遷という大きな背景の下で、4月14日に、第17回中国国際人材交流大会が、シンセン会議展覽センターにて開催されました。国際人材交流大会は、中央・地方政府、国内外の企業、教育機関など4000以上の機関、国内外の政府代表や専門家などを含む延べ4万人以上が参加する巨大な人材交流プラットフォームです。



科技部副部長へJICA事業紹介

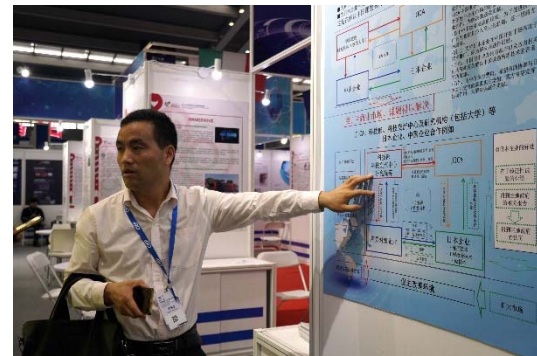


JICA出展ブース風景

JICA中国事務所は中国科技部科技交流センターの招へいで今回初めてJICA出展ブースを出展し、科技交流センターの柏燕秋処長と一緒に事務所からは糟谷次長、馮威所員が参加しました。



古い友人たちと



JICAの新しい事業に興味津々な様子の来場者

JICAブースでは、ODA事業概要とともに、中国事務所が進めてきた企業連携の概要と具体例などを紹介しました。大会開催期間には、科技部の王志剛部長に簡単な挨拶を行い、また、JICAブースに視察に来られた科技部・張建国副部長に、これまでのJICAと科技部の協力の下実施した事業成果を紹介すると同時に、今後の協力可能性について説明しました。

中国全国各地の以前のカウンターパートたちがJICAブースを訪問し、今後の新たな協力可能性について、意見交換を行いました。また、今回の大会をきっかけとして初めてJICAを知った多くの方々とも交流することができました。Post-ODAに向けて、古い友人・新しい友達の双方から、JICAとの新たな協力が期待されていることを実感しました。

馮威

### 円借款「甘肅省蘭州市大気環境改善事業」による大気汚染対策へのサポート

甘肅省蘭州市は、「2つの山と1つの川」に囲まれた狭い流域にあり、冬は風がなく、煙やホコリが街の空全体に広がって分散しないため、現地の市民より「ふたの下の都市（锅盖下的城市）」と呼ばれていました。



20年前の写真と重ね合わせてみる(実施機関より提供)



受益者とのヒアリング会議（事後評価専門家より提供）

中国・西北部地域の脆弱な生態環境、単一のエネルギー、塵埃汚染、自動車の排気ガス汚染およびその他の要因により、長期にわたって蘭州市は大気汚染の被害を受け続け、かつては世界で最も汚染が深刻な都市の1つでありました。

2009年からスタートした「甘肅省蘭州市大気環境改善事業」（円借款対象額：74億円）は、甘肅省蘭州市において、小型石炭ストーブや小規模ボイラーを全て集中熱供給へと移行し、小型石炭ボイラー等汚染排出源の抑制による大気汚染負荷の緩和を図り、同市の住民の生活環境の改善に寄与するものでありました。

本事業の実施機関である蘭州市熱力総公司の関係者が2010年と2016年の2回にわたり日本に研修に行きました。環境省で「日本の大気汚染防止政策概論」の講義を受け、品川清掃工場ではゴミ処理施設の排熱利用と排ガス対策の最先端技術を視察しました。その他、北海道環境局、札幌市環境局における大気汚染関連の講義、北海道熱供給公社と北海道地域暖房株式会社の熱供給システムなども視察し、大変参考になったようです。



熱供給配管の点検 (実施機関より提供)



熱交換設備 (事後評価専門家より提供)

蘭州の大気質は6年連続で大幅に改善され、主な汚染物質の濃度と総合指数は過去最低を記録し、今では「蘭州ブルー」は市民の誇りとなりました。

現在、円借款「甘肅省蘭州市大気環境改善事業」にかかる事後評価を実施しており、2019年内に詳細な実施効果・評価内容がJICAのホームページで公開される予定です。

張陽

## 湖南大学×JICA 今夜は JICA Night “グローバル人材を目指すあなたへ”開催

5/30-31湖南大学派遣中の竹澤真利隊員が、“JICA Night”を開催しました。これは、卒業後、日中の架け橋になっていく同校の日本語を学ぶ学生たちに“真のグローバル



参加者全員で記念撮影



周妍 NS による「グローバル人材講座」

人材”とは何かを体験し、考えてもらおうという企画で、他地域で活躍する3名の協力隊員も駆け付けました。内容は、世界の貧富の差を体験して考える「貿易ゲーム」、JICA中国事務所でグローバル人材として20年以上活躍している周妍職員によるグローバル人材講座、日本貿易振興機構（JETRO）武漢事務所で活躍されている片小田さんによる実体験の紹介、日本語コーナー、フォークダンスなど盛りだくさんの2日間でした。

JICAは湖南大学に2000年から19年間にわたり5名のJICA協力隊を派遣し、同校の日本語学部の発展に貢献してきました。竹澤隊員が7月に帰国することに伴い、湖南大学への隊員派遣は終了となります。



盛り上がる参加者と竹澤隊員



日本語と頭を使って人間知恵の輪

また、湖南省には1990年から29年にわたり72名の隊員を派遣してきましたが、竹澤隊員の帰国をもって湖南省への派遣も終了となります。

これまでの協力の成果が今後も引き継がれていくことを願っています。

企画調査員（ボランティア事業担当） 中坊容子

### ごみゼロ活動で日中協力

北京から北に90km 離れた河北省・懷来天漠で開催された野外音楽フェスティバルで、日中のNGO・NPO の若者が手を携えてごみゼロ活動を行いました。これは、自然の友に派遣中のJICA青年海外協力隊・秋吉楓隊員が結んだご縁により実現した活動で、今年で2回目となります。

中国の老舗環境保護NGO・自然の友と、世界で最もクリーンなフェス「フジロックフェスティバル」を手掛ける日本のNPO・i Pledge は、秋吉隊員が架け橋となって昨年からの交流



来場者は一日2万人以上

を重ね、日本のごみゼロ活動の手法を移転してきました。



日中両言語で書かれたボード

この交流により、中国側に起こった大きな変化は2つ。一つ目は、ボランティアの役割が「ごみを拾うボランティア」から「ごみを拾わない、観客を分別に導くボランティア」になったこと。もう一つは、ボランティアのコアスタッフ（ボランティアの中心となって活動するメンバー）制度の導入により、少人数で多数のボランティアをコーディネートできるようになったことです。

6/29・30フェス当日の来場者数はのべ4万人以上、その中で約60名のボランティアが観客を誘導し、計1.37トンのゴミの分別収集に成功しました。このゴミの内、65%が再利

用可能な資源とのこと。

昨年は8名駆けつけた日本人スタッフは、今年は5名に減少し、昨年の経験から自信を得た中国人スタッフ達が生き生きと自発的に活動する姿が目立ちました。

自然の友は、この音楽祭で培った経験を活かして2019年から中国各地のマラソン大会でもごみゼロ活動を実施しており、大きな成果をあげています。



ボランティアを送り出す秋吉隊員（右手前）

（企画調査員 中坊容子）